



ASSESSMENT OF TECHNOLOGY
FOR BUILDING CONSTRUCTION

GBRC 性能証明 第12-16号

建築技術性能証明書

技術名称：ER Pile工法
－杭頭部鋼管巻き場所打ちコンクリート杭工法－

申込者：ジャパンパイル株式会社 代表取締役社長 黒瀬 晃
東京都中央区日本橋浜町二丁目1番1号
丸五基礎工業株式会社 代表取締役社長 平見 殖
大阪府大阪市北区東天満二丁目6番2号

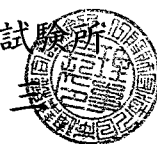
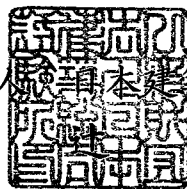
技術概要：本技術は、場所打ちコンクリート杭の杭頭部の曲げ・せん断性能を向上させるために、平鋼管を杭頭部に設け、その鋼管下端部に工場溶接で取りつけた水平突起リングにより、鋼管鉄筋コンクリート部分から鉄筋コンクリート部分への応力伝達を可能にするものである。

開発趣旨：従来の場所打ちコンクリート杭は杭頭部にリブ付き鋼管を用いて鋼管と鉄筋コンクリートを一体化させて杭頭部の曲げ・せん断性能を向上させている。しかしリブ付き鋼管は、一般的な鋼管ではなく、製造時期やコスト上の問題があった。本技術は、一般的な平鋼管に水平突起リングを取り付けることで、リブ付き鋼管と同様な性能の向上を図るとともに、上記問題点の解消を意図して開発したものである。

当法人の建築技術認証・証明事業 業務規程に基づき、上記の性能証明対象技術の性能について、下記の通り証明する。

平成24年9月7日

一般財団法人 日本建築総合試験所
理事長 文



記

証明方法：申込者より提出された下記の資料により性能証明を行った。

ER Pile工法「性能証明のための説明資料」

この資料には、本技術の目標性能達成の妥当性を確認した説明資料がまとめられている。
この資料のほかに、ER Pile工法「設計・施工指針」が提出されている。

証明内容：申込者提案工法による場所打ちコンクリート杭の鋼管巻き杭頭部は、ER Pile工法「設計・施工指針」で定める杭頭部の性能を有し、同工法「設計・施工指針」に示された方法で適切に評価できると判断される。

建築技術性能認証委員会委員

委員長	松井千秋	九州大学	名誉教授
副委員長	富永晃司	広島大学	名誉教授
〃	森野捷輔	三重大学	名誉教授
委員	荒木秀夫	広島工業大学工学部建築工学科	教授
〃	伊藤淳志	関西大学環境都市工学部建築学科	准教授
〃	大島昭彦	大阪市立大学大学院工学研究科	教授
〃	大野義照	大阪大学	名誉教授
〃	金子佳生	京都大学大学院工学研究科	教授
〃	壁谷澤寿海	東京大学地震研究所	教授
〃	河野昭彦	九州大学大学院人間環境学研究院	教授
〃	桑原進	大阪大学大学院工学研究科	准教授
〃	甲津功夫	大阪大学	名誉教授
〃	小林克巳	福井大学大学院工学研究科	教授
〃	菅野俊介	広島大学	名誉教授
〃	鈴木祥之	立命館大学立命館グローバル・イノベーション研究機構	教授
〃	田才晃	横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院	教授
〃	田中哮義	京都大学	名誉教授
〃	田中剛	神戸大学大学院工学研究科	教授
〃	田中仁史	京都大学防災研究所	教授
〃	勅使河原正臣	名古屋大学大学院環境学研究科	教授
〃	中塚 侖	大阪工業大学	特任教授
〃	榊田佳寛	宇都宮大学大学院工学研究科	教授
〃	松尾雅夫	一般社団法人日本建築構造技術者協会	
〃	三谷 勲	神戸大学	名誉教授
〃	山崎雅弘	岡山理科大学工学部建築学科	教授
〃	井上一朗	(一財)日本建築総合試験所	副理事長
〃	角 彰	(一財)日本建築総合試験所 建築確認評定センター	審議役
〃	下平祐司	(一財)日本建築総合試験所 建築確認評定センター	部長
〃	永山 勝	(一財)日本建築総合試験所 試験研究センター	部長

ER Pile工法

一杭頭部鋼管巻き場所打ちコンクリート杭工法一

評価専門委員会委員

主査	三谷 勲	神戸大学	名誉教授
委員	松尾 雅夫	一般社団法人日本建築構造技術者協会	